

## 平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立鬼怒 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成27年4月21日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語	225人	社会	225人	数学	225人
	理科	225人	英語	225人		

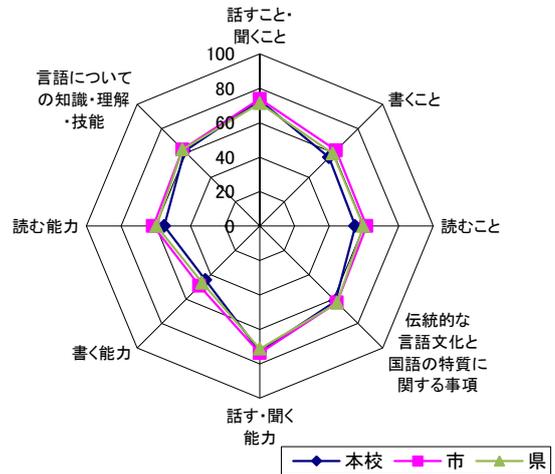
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	72.9	73.8	71.3
	書くこと	56.4	62.2	59.6
	読むこと	55.0	61.5	59.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.7	62.9	63.1
観点	話す・聞く能力	72.9	73.8	71.3
	書く能力	44.3	49.2	46.8
	読む能力	55.1	61.5	59.6
	言語についての知識・理解・技能	61.5	62.9	62.9



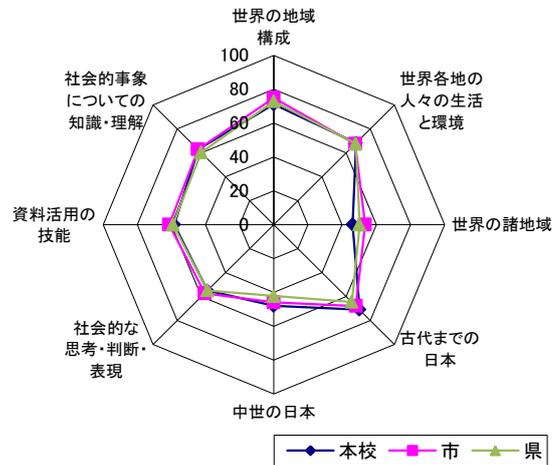
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○聞き手に理解してもらうための話の構成や話の工夫を問う問題では、正答率が県平均を上回っている。 ●司会者の話し合いの進め方の工夫についての理解を問う問題では、正答率が県平均より下回っている。	・学習活動の中に、聞き取りや話し合いの時間を意図的に設定し、司会者の経験をさせ、進め方の工夫について理解させる。 ・人の話に真摯に耳を傾ける態度と雰囲気醸成する。
書くこと	○文章の内容をまとめることに関しては、正答率は県平均とほぼ同等である。 ●詩の表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを書く問題では、正答率が県平均よりやや下回っている。	・説明文の指導の中で要約の時間を多くとり、内容を的確にまとめる力をつけさせる。 ・授業の中で、書く時間を多く設定し、自分の意見や考えを文章にする練習を行わせる。
読むこと	○文学的文章の読解では、登場人物の心情描写に注意して読み、心情を正確にとらえる問題で正答率が県平均とほぼ同等である。 ●説明的文章の読解では、文章の内容を整理して要旨をとらえる問題の正答率が県平均よりも大きく下回っている。	・読書の機会を増やすとともに、様々なジャンルの本に興味を持たせるよう読書指導を行う。 ・説明文の文章構成をしっかりと押さえた授業をする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みに関する問題の正答率は、おおむね県平均と同等である。 ●文法・語句に関する知識で、単語についての理解を問う問題では、正答率が県平均を大きく下回っている。	・小テストを定期的に行い、漢字の書き取りの力を身につけさせる。 ・日頃から言葉を大切に、単語を確認しながら授業を行う。

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	71.0	74.8	72.8
	世界各地の凶々の生活と環境	68.2	67.5	67.8
	世界の諸地域	46.2	53.4	50.2
	古代までの日本	71.0	68.0	64.6
	中世の日本	48.0	45.8	42.2
観点	社会的な思考・判断・表現	55.1	57.3	55.0
	資料活用技能	58.4	61.4	59.1
	社会的な事象についての知識・理解	62.9	62.9	60.3



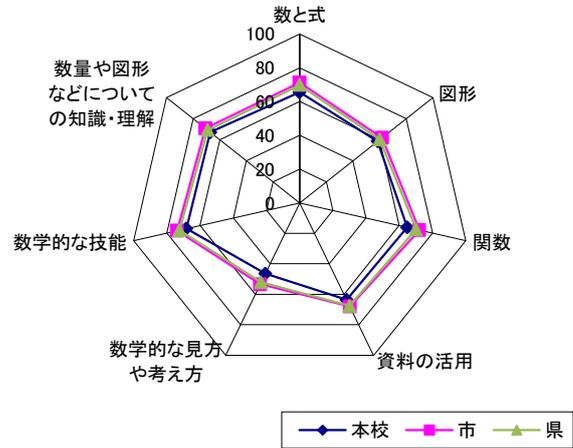
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体として市や県の平均を下回り課題が残る。</li> <li>●海洋や州、大陸の名前を選択する問題の正答率が低い。普段見慣れないアフリカ州が中央に来る地球儀や正距方位図法で出題されたことが原因であると考えられる。</li> <li>○緯度や経度に関する問題は、県平均を上回る正答率だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大陸や海洋の形や位置関係のポイントを確認し、地図や地球儀の問題が的確にできるように指導したい。</li> </ul>
世界各地の人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全体として市や県平均を上回り良好である。</li> <li>○雨温図から場所を選ぶ問題と、高山気候の特色を選ぶ問題は特に良好である。</li> <li>●主食の分布を問う問題と雨温図の特徴を問う問題の正答率がやや低かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主食の分布の特徴についてはポイントとなる事項を指導したい。</li> <li>・雨温図などのグラフの特徴をつかむ力が不足しているので、グラフを読み取る力を日頃の授業から意識して指導していきたい。</li> </ul>
世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体として市や県平均を大きく下回り課題が残る。特にオセアニア州に関する問題の出来が悪い。</li> <li>●ヨーロッパ州の問題では、イギリスの位置を問う問題の正答率が低い。また、EUの経済格差について資料を読み取って記述する問題もかなり正答率が低い。</li> <li>●オセアニア州の問題では、グラフを読み取って答える問題(選択問題と記述問題)の正答率が低い。</li> <li>○偏西風に関する問題は正答率が高かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフを読み取る力が弱いので、グラフを読み取るポイントを特に指導していきたい。</li> <li>・小学校で習う割合の考え方が不十分であり、計算が必要な問題の苦手意識が高い。計算のやり方については数学科と連携をとり、補習が必要である。</li> <li>・資料を読み取り思考し、文としてまとめさせる学習を多くさせたい。</li> </ul>
古代までの日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県平均を約7ポイント、市平均を3ポイント上回っていて大変良好である。</li> <li>○すべての問題の正答率が県平均を上回っている。資料を読み取る問題や地図を使った問題の正答率も高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史については普段の授業から興味をもって取り組んでいる生徒が多いのが、学力の向上につながっている。基礎的な重要語句の定着が高いのは、プリントによる学習や毎時間復習に力を入れている成果が出たと思われるので、継続していきたい。</li> <li>・地理の知識が必要な問題については、都道府県や主な国の場所を完全に覚えさせることを意識して指導していきたい。</li> </ul>
中世の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県平均を約6ポイント、市平均を約2ポイント上回っていて大変良好である。</li> <li>○資料や図から考える問題の正答率も県平均を大きく上回っている。</li> <li>●中世の人物の並び替え問題のみ県平均をやや下回っているのが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史については、歴史資料を読み取る問題もよくできていた。今後も資料についてはポイントをしっかりとらえられるようにしていきたい。</li> <li>・記述問題については、重要ポイントを押さえて文章化する学習をしていきたい。</li> <li>・歴史の流れを大局でつかむ力を育てないといけない。節目節目で年表等を活用する学習を取り入れていきたい。</li> </ul>

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	65.5	71.2	69.8
	図形	58.6	61.9	60.2
	関数	64.8	72.1	70.1
	資料の活用	63.7	68.0	67.6
観点	数学的な見方・考え方	46.5	53.4	52.1
	数学的な技能	68.2	73.8	72.5
	数量や図形などについての知識・理解	67.1	70.8	69.1



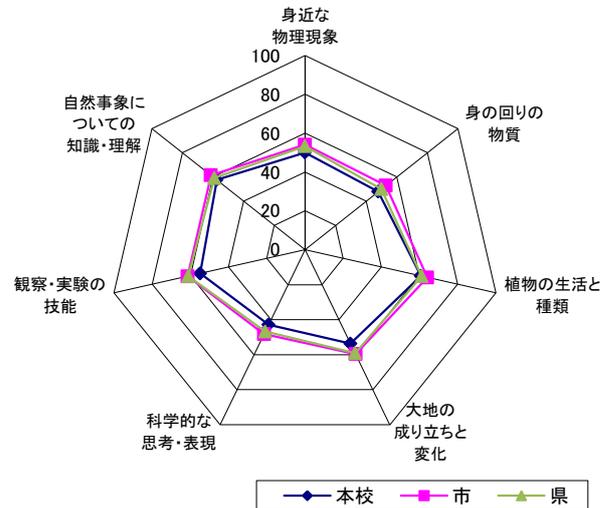
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の数、文字式、一次方程式の基本的な計算は、県や市の平均とほぼ同じ程度できている。 ●文章から一次方程式を立式することが苦手である。	・ドリル問題で繰り返し計算練習をさせる。 ・文章を読み、意味を理解させ、文字を使った式や方程式を立てる練習を意図的にとる。
図形	○作図や回転体の投影図、円柱の側面積や正四角錐の体積の求め方など、県や市の平均とほぼ同じ程度できている。 ●対称移動、回転移動を組み合わせた移動や、ねじれの位置などの理解が不十分であった。	・図を丁寧に書かせるなど操作活動をたくさん取り入れ、図形に関する様々な知識の理解を深める。 ・面積や体積の求め方を理解させ、公式を確認し、繰り返し練習問題に取り組みさせる。
関数	○比例反比例の知識理解に関しては正答率は市、県平均近くまで達している。 ●比例のグラフを書く問題が県平均より12ポイント、グラフを利用して目的地につく時間を求める問題が県平均より6.6ポイント低かった。	・比例反比例の意味、グラフの書き方を十分に理解させる。 ・グラフから読み取る問題も、パターンを覚えさせたい。 ・式・表・グラフを関連させて指導し、問題演習に取り組ませる。
資料の活用	○度数分布表を利用した問題は比較的できがよく、項目によって県平均を上回るものもあった。 ●ヒストグラムから、度数の合計を求める問題は、県平均より9.6ポイント低かった。	・度数分布表、ヒストグラムなどの意味を理解させ、これらを使った問題を解かせ、パターンを覚えさせる。 ・関数同様に、式・表・グラフを関連させて指導する。

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	50.0	54.0	53.3
	身の回りの物質	47.9	52.9	50.0
	植物の生活と種類	60.7	64.1	61.1
	大地の成り立ちと変化	53.6	59.6	59.1
観点	科学的な思考・表現	42.8	48.2	46.7
	観察・実験の技能	54.9	61.5	61.1
	自然事象についての知識・理解	57.6	61.4	59.2



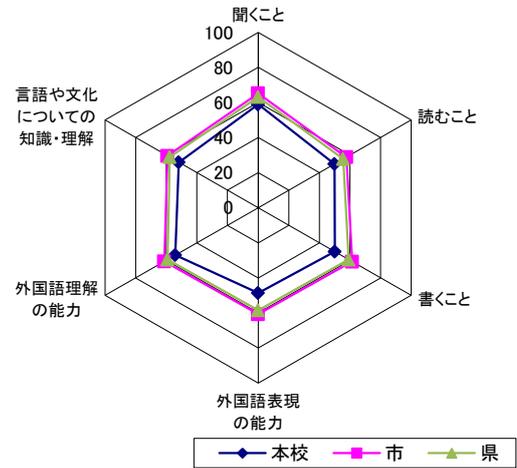
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	<p>○「凸レンズに平行光線を当てると1点に集まり、その点を焦点と呼ぶことがわかる。」についての正答率は86.7%で県の正答率を7.1ポイント上回っている。</p> <p>●「光の反射の規則性から、鏡に映る範囲を推測できる。」についての正答率は24.8%で、県の正答率を10.2ポイント下回っている。</p> <p>●「水圧のはたらき方を矢印で表すことができる。」についての正答率は33.2%で、県の正答率を17.5ポイント下回っている。</p>	<p>・「水圧」についての理解は、「浮力」の概念とともに実験を通して考えさせていく。「力を矢印で表すこと」は数多くの事例を通して身につけることができるようにしていく。</p> <p>・「光」については、見えるものから光が出ていることを実験を通して実感させるとともに、反射の規則性は作図を通して理解できるようにしていく。</p>
身の回りの物質	<p>○「酸素の発生法と性質がわかる。」についての正答率は55.8%で、県の正答率を9.4ポイント上回っている。</p> <p>●「水溶液の質量パーセント濃度を2分の1にしたときの、粒子モデルを推測できる。」についての正答率は54.0%で、県の正答率を5.4ポイント下回っている。</p> <p>●「ガスバーナーを正しく使うことができる。」についての正答率は55.3%で、県の正答率を15.2ポイント下回っている。</p>	<p>・「粒子モデル」については、「食物の消化」、「化学反応」、「光合成」など多くの単元で扱い、理解を深めていく。</p> <p>・扱い方の復習もかねて、実験でガスバーナーを使う機会を多く取り入れていく。</p>
植物の生活と種類	<p>○「植物の根から吸収された水が、茎のどの部分をとるのかがわかる。」についての正答率は61.5%で、県の正答率を8.8ポイント上回っている。</p> <p>●「ルーペを正しく使うことができる。」についての正答率は60.6%で、県の正答率を12.6%下回っている。</p>	<p>・実験。観察を行うときは、器具の使い方あ注意すべき点を十分に確認する。</p>
大地の成り立ちと変化	<p>●「深成岩のつくりとでき方がわかる。」についての正答率は33.0%で、県の正答率を12.6%下回っている。</p> <p>●「地震によって発生した2種類の波の伝わり方がわかる。」についての正答率は52.2%で県の正答率を10.9ポイント下回っている。</p>	<p>・深成岩と火山岩については、観察・実験により理解を深める。</p> <p>・「地震の2種類の波」については、バネを使った実験などを通して理解を深める。</p>

# 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	58.9	65.2	63.2
	読むこと	49.9	57.6	55.6
	書くこと	50.1	61.4	59.2
観点	外国語表現の能力	48.7	60.7	58.4
	外国語理解の能力	54.1	61.3	59.2
	言語や文化についての知識・理解	51.8	59.2	57.8



## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○対話文の聞き取り(曜日・時刻)に関しては、正答率が県平均よりもおおむね上回っている。</p> <p>●対話文の聞き取りと応答、まとまりのある英語の聞き取りに関する問題では、正答率が県平均より下回っている。</p>	<p>・継続的に対話文やまとまりのある英文の内容を聞く機会を増やす。</p> <p>・会話活動を多く取り入れ、英語の音に触れる機会を増やし、聞き取りの力をのばすきっかけにする。</p>
読むこと	<p>○対話文の中で、疑問詞を用いた問題の正答率が昨年度よりも14.7ポイント上回った。</p> <p>●まとまりのある英文の内容を読み取る問題では、正答率が昨年と同様に県平均を下回った。</p>	<p>・まとまりのある英文を読む機会を増やし、英語の文に慣れさせる。</p> <p>・代名詞の指す内容など、読み取りのポイントを示し、必要な情報を読み取る能力を伸ばす。</p>
書くこと	<p>○語順の理解の問題で、否定文の問題については昨年度よりも、正答率が県平均を上回った。</p> <p>●内容につながりのある3文以上の英文を書く問題については、正答率が県の平均を大きく下回った。</p>	<p>・日頃から英文を書く機会を多く設け、英作文を書く習慣を身につけさせる。細かく添削し、文法の力をのばす。</p> <p>・自分の考えを書くことで表せるように、様々な表現や語彙を指導し、生徒たちの表現の幅を広げる。</p>

## 宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の宿題をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」に対する肯定率は市・県を上回っている。また、「家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようにしている」に対する肯定率も市・県を上回っている。家で学習する習慣が身に付いてきている生徒も見られる。今後も、自主学習ノートの提出について指導を続けていく。

○「自分は家族の大切な一員だと思う」に対する肯定率は、市・県平均を上回っている。

○社会科について「好き」「授業の内容がよく分かる」と肯定的に答えた生徒は、市・県より上回っている。

●「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」「むずかしい問題にであうと、やる気がでる」「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」に対しては肯定率が50%以下である。難しい問題に対して進んで解決しようという姿勢が不足している傾向が見られる。辞書をひく練習や、図書室の活用を通して、知る喜びや達成感を味わわせたい。

●音楽、美術、技術・家庭、英語が好きと答えた生徒の割合は県の肯定率を下回っている。「友だちの前で自分の考えや意見を発表することは得意だ」に肯定的に答えた生徒が4割をきっている。また、「英語の授業のコミュニケーション活動において、自分の考えや気持ち、事実などを積極的に相手に伝えようしたり、相手の考えなどを理解しようしたりしている」「英語の授業のコミュニケーション活動において、コミュニケーションがとぎれそうになるときは、様々な手立てを用いて、コミュニケーションを継続しようとしている」に対する肯定率も低い。これらのことから、自分の考えたことを表現したり、イメージしたことを創造したりする活動やコミュニケーション活動に苦手意識を持っている生徒が少なくないと思われる。表現することの楽しさに気づかせるとともに、物事を作り上げる達成感を味わえるような学習活動を工夫していく。